

第2号様式（第3関係）

平成22年度第3回豊山町生涯学習推進審議会会議録

- 1 開催日時 平成23年3月17日（水）午後2時から
- 2 開催場所 豊山町役場 2階 会議室1
- 3 出席者 豊山町生涯学習推進審議会委員
（役職及び氏名） 会長：岡田洋司
委員：山本達三、渡辺博史、岡島 剛、高柳勝子、石黒俊彦
宮沢洋子、岡島千衣子、安藤証一、山村ノリ
（欠席） 西川 徹
事務局：松田康朗教育長、早川晴男教育部長、佐藤正司係長
- 4 議題 （1）平成23年度豊山町生涯学習まちづくり基本計画・実施計画について
（2）平成22年度生涯学習学級講座受講状況について
- 5 会議資料 ・平成23年度豊山町生涯学習まちづくり基本計画・実施計画（資料No.1）
・平成22年度生涯学習学級講座受講状況（資料No.2）
- 6 議事内容

（司会） 本日は、お忙しい中、定刻までにご参集いただきありがとうございます。ただ今から第3回生涯学習推進審議会を開催します。なお、本日、西川委員より欠席の連絡をいただいておりますので報告させていただきます。

—配布資料の確認—

それでは、最初に会長よりあいさつをいただきます。

（会長） 本日は、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。先週は、東北地方で大変なことが起こりました。私も愛知県庁の4階にいましたが、蛍光灯が大きく揺れ、最初は目眩がしたと思いましたが、今までない怖い経験しました。被災された方々はそれどころではなく、たいへんな思いをされていると思います。学生の中にも、被災地にいる者もありますが、差し当たり何もできない状況です。今、私たちにできることをしっかりやるが大切だと思います。

本日は、今年度の最後の会議となりますので、この間の報告と来年度に向けた計画をご審議いただき有意義な会議としたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(司会) 続きまして、教育長よりあいさつを申し上げます。

(教育長) 失礼します。本日、町内にあります天使幼稚園の卒園式に出てきました。100数人の可愛い子どもたちが卒園していきました。子どもたちに不幸がおとずれないことを強く思いました。親さんも若い方が多く、これから家庭を築き、本町の生涯学習事業にも参加していただけることと期待をいたしました。東北地方での災害のニュースを見聞きするたびに胸のつぶれる思いで一杯です。

振り返りますと、早いもので本年度最後の審議会となりました。委員の皆さまには、生涯学習に高い関心をもっていただき、毎回、斬新なアイデアを出していただきましたことを感謝申し上げます。

とにかく、生涯学習がこれから更に充実したものになるように、皆さま方のご協力をお願いします。

(司会) それでは、これより議題の審議に入ります。ここからの取り回しは会長をお願いします。

(会長) 議案(1)「平成23年度豊山町生涯学習まちづくり基本計画・実施計画について」事務局より説明をお願いします。

～平成23年度豊山町生涯学習まちづくり基本計画・実施計画について～
資料NO.1により説明。

(会長) 事務局の説明が終わりました。今の説明について何かご質問ご意見はありますか。

(委員) P8に学習等供用施設の有効利用がありますが、今年の初めになって、エアコンの温度を20度設定にするという張り紙がされました。寒い中でもあったので、利用者は震え上がり、不満の声を多く聞きました。どういう形でこうなったのかをお聞かせ下さい。

(事務局) 学習等供用施設は指定管理制度で実施し、シルバー人材センターが管理を行っています。管理に関する運用基準を定めており、それに基づき運営されています。地球温暖化防止、二酸化炭素の排出抑制のため、夏は28度以上、冬は概ね19度以下という基準を定めています。適切に運用されていたと思いますが、利用者の方が勝手に温度を上げたり、下げたりすることが多々あったと聞いています。管理者に対して運用基準により適切に運用をするよう求めたところ、張り紙を張り、温度設定を調整できない措置をとったという経緯であります。

しかし、ちょうど一年で一番寒い「大寒」の時期でもあり、やはり利用者の気持ちにたった運用をという声を多く聞きました。どうしても寒いときは、事務所に申し出ただけであれば適切な対応を取るよう指導いたしました。利用者が気持ちよく利用していただけるよう心がけていきたいと考えています。

(会長) 理由の説明がきちんとされていなかったのでしょうか。

(委員) 少し説明不足だったと思います。いきなり張り紙を張るだけでは乱暴だと思いました。

- (会長) 個人の言い方の差もあると思いますが、やはり説明をすべきと考えます。
- (委員) P4に「スポーツ指導者の養成」とありますが、どのような事業があり、何人参加されているのか聞かせてください。
- (事務局) 町が独自でおこなっている事業はなく、愛知県や愛日、西春日井地区などで行っている講習会や研修会に参加しています。主なものは、体育指導委員講習会やスポーツ少年団指導者講習会などです。体育指導委員関係は4回で延19人、スポーツ少年団関係は3回で延10人が参加しました。
- (委員) わかりました。現在、指導者として活躍されている方が対象で新規の方対象のものではないということですね。最近、指導者の高齢化が進んでいますので、町独自のものではなく県などの主催のものでよいので、若い人に少しでも多く参加してもらえようとする必要があると思います。大学で開講する場合は、地域の方を受け入れていることもありますので、ご利用されてはいかがでしょうか。
- (委員) P3の保健センターのウォーキング教室に事業に参加しています。22年度は4回実施し、毎回多くの方々が参加しています。実は、昨日にその打ち合わせ会議があり23年度は6回に増やすよう決まりましたので、この場で報告させていただきます。
- (会長) 同じくP3に「老人健康教室」という表現がありますが「老人」ということばに抵抗はないのでしょうか。すぐ下に「高齢者」という表現もあり、使い分けをどのようにされているのでしょうか。
- (事務局) 保健センターと総合福祉センターの担当事業でありますので、そういった意見があった旨を伝えておきます。
- (委員) P7の「おやじの会」についてです。先日、ラジオを聞いていて四日市だったと思いますが、子育てマイスターという講座があり講座修了者には認定証が贈られるそうです。おやじの会に向けて参考になるかと思いましたが紹介させていただきました。
- (会長) 「おやじの会」の構想をもう少し具体的に聞かせて下さい。
- (事務局) 小学校区ごとに立ち上げ、どういった活動をするかは個々の組織で自由に決めていただければいいと思っています。イベントやレクリエーションのほか、奉仕活動など何でもいいと思います。いずれにしても学校の係わりが大きいことから、学校との調整を深めながらお父さん方が参加できる事業を実施していきたいと思っています。
- (会長) 働いているお父さん方がなかなか事業に参加してもらえないので、行政が「おやじの会」などの制度をつくれればきっかけになるかもしれません。
- (会長) P10の指導者バンクの整備は、「継続」となっていますがどの程度すすんでいるのでしょうか。

- (事務局) 従来から「生涯学習ボランティアバンク」を設けていて、現在は88人の方々に指導者として登録してもらっています。毎年、4月に発行される生涯学習情報誌「生きがいタウン」に掲載し募集を行います。登録を希望される方があれば随時受付けています。
- (会長) 現実にバンクを利用し、指導を依頼することは何件あるのでしょうか。
- (事務局) 生涯学習ボランティアバンクは、個人に講師を派遣するものではなく、概ね5人以上の小グループを対象としています。本年度は、個人からの問い合わせは数件かありましたが、結果としてこの制度による講師派遣は1件もありませんでした。
- (会長) 先月に岡崎市で「指導者バンク」について話しをしてきました。岡崎にも同じような制度があり、200人ほどが登録をしています。まず講師を希望する方に講座を行ってもらい全体の適正を見ます。毎年、登録者うち何人かが更新を希望し、依頼があれば講座を継続してもらいます。しかし、具体的な問題がありましたので参考までに申し上げます。市から依頼する場合は純粋なボランティアですが、自分がほかで教室をやっている、いつしか自分の生徒に取り込んでしまうということがあるようです。当日は、会場に100人くらいの方がいましたが、うち80人は何らかの形で教室などを持っている方でした。豊山町の場合はそうありませんが、そういう目的に使われるのは問題だと思います。
- (委員) 「ボランティアバンク」への登録は個人からの申し出でしょうか。あるいは、行政側からの依頼によって登録をしてもらおうのでしょうか。
- (事務局) 原則は、個人からの申し出で登録しています。例外的に行政側から依頼する場合があります。
- (委員) 住民からの要望で講座開催の依頼があった場合は、町民の中から講師を探すことはあるのでしょうか。講師のできる実力のある方もいると思うので、積極的に探されてはいかがでしょうか。
- (事務局) 講座開設の基本的な考え方をお話しします。趣味的な講座については、個人の趣向が非常に多様化しておりますので、今後は拡大ではなく縮小する方向で考えています。従いまして要望をお聞きしてもご期待応えることは難しいと考えます。こういったものを学びたいという個別な要望には、近隣市町や文化センターなどで開催される講座などを紹介し応えています。
- (委員) 住民の中には、隠れた才能を持った方も多くあると思います。ボランティアで指導いただけるなら活用してもらえると良いと思います。
- (事務局) P12にあるように新基本構想・構想の中で「自主的講座の開設」をめざしています。隠れた才能や講師を努められ技量・知識のある方で講座を開きたいという方を募り、行政が募集をし、講座として開催するというものです。そういった学びの循環を生涯学習に生かして生きたいと思っています。

- (委員) 私はボランティアバンクに登録して「リフォーム教室」やっています。おかげさまで、定員一杯の盛況で、口コミや情報誌を見て電話などで申し込みがありますので随時受け付けています。順調に運営していますので報告させていただきます。あと、発表の場は是非実現してほしいという声を聞きます
- (会長) 他に、質問やご意見はありませんか。
何もなければ第1号議案「平成23年度豊山町生涯学習まちづくり基本計画・実施計画について」をご承認いただける方は拍手をお願いします。
(拍手)
- (会長) 第1号議案「平成23年度豊山町生涯学習まちづくり基本計画・実施計画について」は全員の拍手で承認されました。
続きまして、第2号議案「平成22年度生涯学習学級講座受講状況について」について事務局から説明をお願いします。
～平成22年度生涯学習学級講座受講状況について～
資料NO. 2により説明。
- (会長) 事務局の説明が終わりました。今の説明について何かご質問ご意見はありますか。
- (会長) 乳幼児学級につきましては回数を10回から2回に変更し、保健センターと共催で行うということでした。理由は、参加が少ないということでしたが、どのように分析していますか・
- (事務局) 事務局の思いとは裏腹に参加者が少ないことは残念です。講座内容が「遊ぶ」「楽しむ」を優先したものではなく、学習的要素が強いことや受講料1,000円が必要なことも今の若いお母さん方に受け入れられない理由かもしれません。しかし、受講された方からは、「どうして縮小するのか」「今まで通っていて欲しい」という声をお聞きしていますので、23年度は一旦縮小する格好となりますが、いつか要望があればもとに格好に戻したいと思います。
- (委員) 乳幼児学級は、「母子分離で学習する場」であるのに対し、保健センターは「親子で一緒に遊ぶ場」なので、まったく目的が違うと思います。子どもを預けてまで学習することを好む母親が少なくなったということです。保健センターには「ママ友」を作りにくるのではないのでしょうか。そういった方々をどういう形で取り込んでいくかが課題になると思います。保健センターと一緒にやれば、高い講師料や託児の費用もかかりませんので、費用的にはかなりの節約になると思いますが。
- (委員) 赤ちゃんひろばにコンサートの出前をするのがありましたよね。
- (事務局) 親子ふれあいコンサートを年4回開催しています。赤ちゃん広場に年2回、ニューファミリー教室に年2回コンサートの出前をして喜ばれています。
- (委員) 胎教とか情操教育にもなり、いい取り組みだと思います。赤ちゃん広場の参加者に乳幼児学級がどう受け入れられていくか期待しています。

(事務局) お母さん方の中には、機会がなくて「いい話」が聞けない人が多いと思います。乳幼児学級がきっかけとなり、少しでも子育ての役に立てればいいと思います。もっと聞きたいという方が増えれば、乳幼児学級を復活させることができると思いますので期待しています。

(会長) 受講者が少ない講座をどのように活性化していくか、あるいは廃止していくのかノウハウを蓄積していく必要があると考えます。乳幼児学級については、お母さん方の意識の違いが大きいため、ブレンドするのは難しいと思います。うまくいくことを期待します。

(会長) 他に、質問やご意見はありませんか。
何もなければ第2号議案「平成22年度生涯学習学級講座受講状況について」をご承認いただける方は拍手をお願いします。

(拍手)

(会長) 第2号議案「平成22年度生涯学習学級講座受講状況について」は全員の拍手で承認されました。
続きまして「その他」に入ります。事務局から何かありますか。

(事務局) 特にありません。

(会長) せっかくの機会ですので、委員の皆さんから何かありましたらお願いします。

(声なし)

(会長) 何もありませんね。皆様のご協力により、本日の議題は全て終了しました。熱心な論議と貴重なご意見をいただき実のある会議になったことに感謝申し上げます。本日はお疲れさまでした。

上記のとおり平成22年度第3回豊山町生涯学習推進審議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの会議録を作成し、会長及び出席者1人が署名する。

平成23年3月23日

会 長 岡 田 洋 司

署名人 宮 沢 洋 子